

にじいろ



アピオあおもり秋まつり参加企画

性的マイノリティ～多様な「私」のいる教室～



午前中の講座では、セクシュアリティの解説とメンバーによるトークが行われました。LGBTという言葉は近年広がりを見せていて、企業による環境整備や制度、宣言が増えてきています。しかし、その一側面だけで良し悪しをとらえるのではなく、さまざまな側面からみる必要があると感じました。興味関心が広がっている今だからこそ、言葉のひとり歩き状態にならないようにするために何ができるのか、何が必要なのか考えていきたいと感じました。

午後のフリースペースでは、展示を見に立ち寄ってくださる人がいてうれしく思いました。スタッフの方と絵しりとりを通して打ち解けることもでき、とても有意義な時間になったと思います。(なる)



2017年度後半の活動報告



平成29年度カダールフェスタ参加企画

多様な性を知ろう！クイズ&ミニ交流会



交流会に参加する前は打ち解けられるか、少し不安はあったけど、皆優しく、とても居心地が良かったです！焼き菓子も作っていったのですが、それも大好評で嬉しかったです。LGBTについてお話して、周りの考え方も共有できて、色々考えることもできました。まだお会いしたことのないメンバーもいるのでこれから活動を通して、色々な人と交流できたらいいなと思っています！私は、サポーターとして活動していくので、皆様よろしくお祈りします☆たんぬでした！

ほんのり ALLY

Ally(アライ)は、セクマイを
応援し、一緒に考えたり、行
動したりする人たちです！

近頃、LGBTという言葉の広まりとともに聞かれるようになってきた“アライ”という言葉。理解者や支援者という風に説明されますが、語源は同盟や盟友を意味する英語です。

でも「私、アライです！」ってがっつり宣言するのめされるのも、何気にハードルが高いよねと思う今日この頃…。

そこで、「がっつりじゃなくて、ほんのりでもいいよね」というゆるめのスタンスで、アライの人が暮らしの中で感じた疑問や気になっていることを、セクマイの人と語り合ってみよう！という企画です☆

今回は、介護の仕事をしているアライのMさんが、セクマイのSさんとトークしました。



福祉職として・・・

S: Mさんは、何か気になっていることがあるんですよね？

M: はい。元はといえば・・・福祉を学んでいた大学生の時、卒論でセクシュアルマイノリティのことをテーマにしました。でも授業やテキストにも出てこないし、自分なりに本を読んだり、アンケートをとって調べたりしました。その頃、友達と卒論の話題になると「あんまり福祉系じゃないね」みたいに言われたりしていたんですけど、「そうかもしれないけど、一度きりの卒論だし、自分が関心のあることをやろう！」と思って。

でも、そもそもその考え方がどうなんだろう？って、今になって思ったんです。

S: というと？

M: 授業では高齢者とか、障害者、児童、色々な人のことを勉強していくんですけど、その中にセクマイについてのものが全然ない。だから「福祉と関係ない」って思うのかもしれない。

でも性に関することって、福祉とか人と接するにあたって、もう根源的なものって感じなので、全く関係ない

どころか、すごい重要じゃないですか。なのにそれを、「あんまり福祉系じゃない」と思うこと自体が、どうなんだろうなって。

S: なるほど・・・男か女かっていうことは、大事にしなきゃいけない、みたいな意識は結構あるのかもしれないけど、セクマイは別物っていうか、無意識に切り離しちゃう人は、意外といろんなのかもしれないよね。男性・女性とは違う、LGBTっていう性別の人？みたいな…。

M: 福祉の授業とかでよく言われるのが、「個別化」なんです。人それぞれ違うし、それを大切にするんだよとか、その人を否定するんじゃなくて、その人をありのまま受け止めることが大事だよって、たくさんテキストにも書かれているんです。セクマイの人たちに向き合う時も同じだと思うんですけど、性の多様性について最低限の知識とかもない状態だと、一人ひとりの気持ちとかちゃんと大切にすることができていないんじゃないかって思ったり。

やっぱり、人それぞれの個性だとか気持ちだとかを大切にしてくださってっていうのであれば、性の多様性や違いについても、介護職としてちゃんと学んで・・・難しい用語を覚えるとかではなくても、そういう人たちもいるということをやちゃんとわかった上で、考えていけるようにしないとダメなんじゃないかって。

分類できるわけでもないし、その人その人の気持ちを受け止めて、どう接してほしい、どう対応してほしいみたいなものを受け入れられるようにするには、まずは基本的なことの理解は大事なんじゃないかなって思いますね。



学校で学べない、ということ

M: 今日お話しする前と思って大学のカリキュラムとかちらっと振り返ってみたら、看護学科の授業には性とかセクシュアリティに関する科目があるらしいっていうのは見つけたんですけど、福祉学科の方にはなかったんですよね。何も、障害のこととか、あとそれに絡めて法律とか制度的なものとかは学んだりしたんですけど。大

【本日のテーマ】 介護の現場で、最近気になっていること

学の授業でセクマイについては学んだ記憶はないですね…授業でうっかり寝ちゃった時に話してるかもしれないけど(汗)



S: 専門の道に進まないと学ぶ機会がないっていうのも、よくないよなって思うんだけどね。

外国人の人たちや、障害のある人たちのことって、今は子どもの頃から何かしらの教材で触れられたりしてるよね。セクマイのことも、ホントは義務教育で触れてくれたら、みんな子どものうちから「自分の生きているこの世界には、セクマイの人もある」っていうことが前提になって、看護や福祉みたいな専門的なことも、その延長線になっていくわけじゃないですか。

でも現状って、Mさんみたいに「これってどうなんだろう？」って自分で疑問を感じて調べたり考えたりしないと、セクマイの利用者さんの存在に気付かないかもしれないわけで。その気付きたか、対応するための基礎になる情報収集みたいなことを、支援に携わっている「個人」に任せちゃってるってことですよ。

個を大事にするっていうところに立ち返れば、基本的には問題もクリアできるかもしれない。でも、前提条件が間違っているとしたら…セクマイの利用者さんはいないと思込んでいたら、もしかしたら相手の個を大事にできていないかもしれない。

それがMさんは気になっているっていうことなのかな。

仕方なく我慢している人がいるかもしれない

M: 前にテレビに、トランスジェンダーの障害者の人が出ていて。自宅でヘルパーさんに介護してもらいながら生活してる人で。身体の性別としては男性として生まれてきたけど、化粧したり、爪を綺麗にしたり、髪も結きたいっていう思いがあって、それをヘルパーさんが理解していて、髪を結ってあげたり爪を綺麗にしてあげたりしてたんです。表立って色々要望を言う人ってなかなかいないのかもしれないけど、もしそういう要望が出てきた時に、自分たち職員はみんな対応できるような体制になってるのかな？って思ったりしました。

S: まずそういう要望が出せるような空気になってるのか、っていうこともありますよね。

M: テレビでマツコ・デラックスとかが映ると、利用者さんが「この人、男だんだが？女だんだが？(男なの？女なの?)」って言ってたり。やっぱり男か女かっていうのが気になるんでしょうね。

あとお風呂なんかも、最初女の人からいくか、とか、じゃあ次は男、とか。パーッと一斉になっちゃう。もしかしたら今まで接してきた利用者さんの中にも、ホントは他の人と一緒にお風呂に入りたくないけど、仕方ないからって我慢してた人もいるかもしれないですよ。自分だけわがまを言っちゃいけない、みたいな。

S: セクマイじゃなくても、そういう人いるだろうなって思いますよね。お風呂に限らず、他の人にとっては気にならないことでも、その人にとってはすごくイヤだっていうことがあるかもしれない。

もちろん、設備とか人手の問題とかで、要望に応えきれないことはあると思うんですけど…無理って最初から決めてしまうんじゃないかって、こういう要望があった時に何かいい方法がないかなっていうのを考えたり、それを職員で共有したりすることはできるのかな。

本人が声をあげるってものすごく勇気が要るし、覚悟も要ると思う。もう当事者の“誰か”にそれを強いるんじゃないかって、先に、一緒に、考えてくれるアライの人がいたら、すごく心強いと思います。

それにしても、介護職の友達の話の聞いているとお仕事ホントに大変そうなので…福祉に携わってる人のことも、ちゃんと大事にされてほしいって思いますね。

今回のトークをまとめながら、もしかしたらセクマイ当事者じゃないからこそ「あれ？これっていいのかな」と疑問を感じることもあるかも、と思いました。

マイノリティは我慢するのが当たり前、という環境で生きてると、自分の気持ちを大切にすることは、「ただのわがままじゃないか」と考えてしまうときがあります。だからこういう話題が、アライという立場の人から出てくることで、「ああ、自分のこの気持ちは大切にしておかっただ」と改めて気付けるし、そのために力を貸してくれる人たちがいることも実感できます。

身近なアライの人たちが、もっともっと増えるといいなと思います(*^*) (創)



他にもありました！秋冬の関連イベント

11/26 Human Library@弘前大学2017

東北ではおそらく初となる本格的なヒューマンライブラリーが、弘前大学で開催されました。スクランブルエッグも共催として協力させていただきました！

セクマイだけでなく、性分化疾患、ひきこもり経験者、発達障害など様々な社会的マイノリティとされる人たちのほか、不登校支援や婚活、まちづくり、LGBT映画祭、防災などのテーマで課題に取り組む人たちが「本」となって、来場した「読者」とお話をしました。



最初の貸出手続き後には、ほとんどの「本」が貸出中

30分の読書が全4回ありましたが、開始時の貸出でほとんどの本が予約済み！来場者数はのべ約180人と、当初目標の150人を上回り、「来年も是非」という感想がたくさん寄せられていました。(創)

12/20 弘前市市民協働政策課主催 ひとにやさしい社会推進セミナー



ご来場くださったみなさんが、熱心に話を聞いてくださいました

2年前にもお話をさせていただいた、弘前市の「ひとにやさしい社会推進セミナー」に、再びお声がけをいただきました(*^^*)

今回は、性の多様性についての

基礎的な解説のあと、実際にどんなときに生きづらさを感じるかや、私自身も体験した具体的な例を交えながらお話をさせていただきました。

質問用紙やアンケートに、参加されたみなさんが感想や思いをたくさん書いてくださっているのを拝見して、こうした機会をいただけてよかったです改めて思いました。またみなさんにお会いできたら嬉しいです！(創)

12/16 秋田県北部男女共同参画センター主催 LGBT基礎講座

まず、暮らしとセクシュアリティにかかわる架空事例をもとにしたテーブルトークでは、参加者の方々の自分の身近で起こり得ることとして捉えようとする姿勢から、隣県の秋田県でもセクマイが身近な存在になりつつあることが感じられ、青森県に生きる当事者としてとてもうれしかったです。

その後の、講師の真木さんによるセクマイに関する基礎知識のレクチャーによって、スクランブルエッグ内外の活動や個人的に本や論文を読むことなどで得た知識を再確認でき、また、創さんによる当事者の声の紹介からは、セクマイの存在について未だに理解が得られにくい現状や、大半の当事者の姿から大きく離れている偏ったイメージがあることを知ることができました。(まる)



性と人権ネットワーク ESTO・代表の真木柁鷹さんと当サークル代表・創が、一緒に講演

☆☆☆メルマガ登録受付中！！☆☆☆

スクランブルエッグでは、メールマガジンを時々発行しています！登録は無料です(^-^)

「無理せず楽しく、自分達の生活を大事にしながら、できることをしてみよう！」というのがモットーの当たまご。イベント自体は年に2~3回程度ですが、開催のお知らせのメール等を配信させていただく予定です。

登録ご希望の方は、件名に「メルマガ希望」と入れて、gochamazetamago@yahoo.co.jp までご連絡くださいね！

【にじたまの主な設置場所】

青森県男女共同参画センター「アピオあおもり」／青森市民図書館／青森市男女共同参画プラザ「カダール」／弘前市立図書館／弘前市民参画センター／弘前大学／FMアップルウェブ／藤崎町ふれあいずむ館／平川市文化センター／スポカルイン黒石／五所川原市立図書館／八戸市立図書館／八戸市図書情報センター／八戸市市民活動サポートセンター「ふれあいセンターわいぐ」／十和田市民図書館／三沢市公会堂／むつ市立図書館／秋田県北部男女共同参画センター